

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

関ブロ新潟大会開催に向けて

大会総務部長(南魚沼市中央公民館長) 阿部 正夫

4.5

- 2 トピックス 「60周年記念中越地区研究大会開催」
- 3 視点 「公民館職員研修について」 新潟市・武石 由紀
- 3 ひろば 「私達の集落の公民館活動」 村上市・本間 茂
- 6 実践記録シリーズ 「変わりゆく分館活動」 南魚沼市・青木 昇
- 7 サークル交流 「踊りから笑顔を元気を」(長岡市) / 「公民館でのお座敷七宝」(妙高市)
- 7 素顔拝見 松井 寿子さん(燕市) / 青柳 治さん(新潟市)
- 8 お元気ですか 児玉 功さん
- 8 惠贈資料紹介



梅雨の晴れ間「山古志の棚田」

表紙解説

梅雨に入ったばかりの山古志の棚田ですが、今日はひと時の晴れ間です。

60周年記念中越地区研究大会開催

6月26日(火)に地区創設60周年を記念して、中越地区公民館研究大会が開催されました。会場は最近オープンした「シテイホールプラザアオーレ長岡」で、すばらしい会場に170名を超える多数の会員が集いました。

〈開会式の模様〉



午後開始でしたが豊富なプログラムで内容の濃い記念大会になりました。

大会の主な内容(敬称略)

1 来賓祝辞

①中越教育事務所長

根木屋由規

②小千谷市教育長

太田 剛

2 講演

大東文化大学非常勤講師

片野親義

講演テーマ

「暮らしと地域を創る公民館」

3 実践発表

柏崎市北条地区コミュニティ振興協議会

戸田洋子

「コミュニティセンターと公民館について」

4 分散会

3分科会で研究協議

5 情報交換会

* 講師の片野氏は、埼玉県浦和市(現在さいたま市)に在職時から、社会教育、公民館の指導者として全国的に著名な方で、豊富な実践と数多くの著書があります。

講演は、それらの実践に基づき現代的な課題解決のために、私たちは今何を成すべき

かを90分にわたって熱弁をふるわれました。

〈講演 片野親義氏〉

用意された講演のレジメのすべてを話す前に時間切れとなりましたが、中身の濃いお話に参加者は満足した様子でした。

〈実践発表〉

柏崎市が各地区ごとに展開している「コミュニティ柏崎市方式」のモデル的な存在として知られている北条地区の取り組みを戸田氏が紹介しました。

20年にわたる活動とその成

果を豊富な資料と共に30分にわたって説明しました。

〈実践発表 戸田洋子氏〉

主に、柏崎市北条地区の取り組みをテーマに意見交換しました。コミュニティセンターの位置づけが各市町村によって異なるので、短い時間の中では協議が難しい様子でした。

〈情報交換会〉

会場を「アトリウム長岡」に移し情報交換会が催されました。90名を超える参加者で大盛会になりました。

〈参加市町村がステージに上がり、乾杯とアピール。写真は南魚沼市〉



視点

「公民館職員研修について」



新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課 武石 由紀

毎年、下越地区の市町村を訪問させていただいています。そこで話題になることは、社会教育関係の予算や人員の削減です。そして、今まで通りの公民館活動のよさを大切にし、地域住民の要請や要望に応え、充実・発展させることが難しい。という意見を聞きます。

しかし、公民館は、地域住民の身近な交流・学習の場となり、地域社会の形成の潤滑油の役割を果たしてききました。

「まちが活き活きしている」ことは、人の動きによるもので、地域の人の活動が活発になれば、地域の活力も増します。確かに予算や人員の削減は、市町村にとっては大きな

マイナス要素です。しかし、地域の資源(人・もの・こと)を活用し、地域住民を巻き込み、主体的な学習・実践に結びつけていくことはできます。

活動が活発な公民館には、優れた職員がいると言われます。まずは、公民館職員が自信を持って仕事ができ、お互いに切磋琢磨し、力量を高めることが必要です。

公民館に寄せる地域住民の期待が高まっている今、下公連では、今年度から「公民館職員研修会」を開催します。これからの公民館活動のあり方や当面する諸課題の解決、そして、公民館職員の資質向上につなげる一助になれば幸いです。

H O T N E W S

掲 示 板

全国公民館連合会総会 開催される

全公連の定時総会が6月6日(木)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、湯浅会長と田原事務局長が参加しました。47都道府県の会長と事務局長がほぼ全員参加して、下記の重要案件を審議し承認されました。

- 1 平成23年度事業報告、決算の承認
- 2 規定の改正(役員報酬の削除)
- 3 名誉会員の推薦(前会長 松下誠氏)
- 4 全国公民館大会(24年大津大会、25年富良野大会)

今年度は、大会2日目に研修会がありました。「熟議」をテーマにワークショップを行い他県の皆さんとの交流と研修を深めました。



総会の模様 中央 湯浅会長

私達の集落の公民館活動

ひろば

村上市社教委・公運番委 本間 茂

昨年の暮れから、新年にかけて大雪となり、屋根の雪降ろしを二回く三回もしなければならぬ地域もあつたようですが、高齢化が進み、又、若い人達に雪降ろしの経験がなく大変苦慮されたと聞いて居ります

約一五〇世帯を十三組に分けて、組別対抗として行うので、子供から高齢者まで、元気な人は、ほとんど参加します。

が、公民館活動の中に後継者育成の事業があつたらと感じました。

とくにジューズ詰競走と、応援合戦は、表彰されるので、熱が入ります。

当地域では、集落が散在して居り、公民館活動は、主として、集落単位で行なつて居ります。

私達の集落では、公民館事業として色々実施していますが、運動会について紹介したいと思います。



開催に向けて

新潟方式でユニークさを出すことに。

①現役の上越市社会教育委員・公民館審議会委員による寸劇

「委員からみた現状」

②講師 雲尾周 (新大准教授) 先生の講話

①②合わせて90分。

平成24年2月に開催された関東甲信越静理事会(松本市)で新潟方式を予告したところ、理事の方々から良い反応がありました。

今年度は本番まで1年なので、今までに決定したことを周到に準備していく1年にしなければなりません。



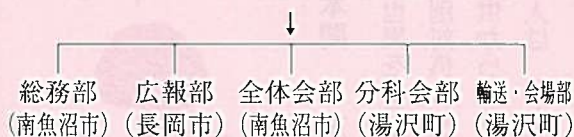
主会場 南魚沼市民会館 正面玄関

4 これからの活動

実行委員会で確認されたことをそれぞれの責任において準備を進めていただくことになります。

以下は大会実行委員会を中心とする組織と分担です。

実行委員長 県公連会長 (下越)
 副実行委員長 県公連副会長(上越、中越、新潟)
 実行委員 県公連評議委員 開催地実務者
 県公連事務局
 中公連事務局 県担当主事



* () は担当市町村・部長

各部の業務内容

総務部・・・企画(大会本部)、総合案内、受付案内、接待、救護、来賓、報道、標示、宿泊、役員昼食、レセプション

広報部・・・大会紀要作成、大会記録資料収集、大会記録集作成、マスコミ対応

全体会部・・・全体進行、運営、会場案内・誘導、式典設営、アトラクション

分科会部・・・会場設営、発表運営

輸送部・・・輸送のすべて

・会場部 会場全般

各部の活動組織、活動予定、作業分担は各部長から細部の提案があります。9月12日(水)長岡市で開催される第5回実行委員会で、各部の活動計画の細案が示されます。すでに市町村別係担当人数はお願いしてありますが、各市町村ではその人選についてよろしくお願いたします。

5 まとめ

新潟県で関プロが開催されるのは、平成14年8月に旧豊浦町で開催して以来です。このときは月岡温泉のホテルを貸しきりで約1100名を超える参加者がありました。そのときの記録を見ますと新潟県の参加者は586名でした。参加者数だけを見ても当時の社会教育、公民館活動の隆盛が良くわかります。レセプションは宿泊者が全員参加で大広間はあふれんばかりの大盛況になりました。アトラクションは佐渡おけさを始め3団体が出演するなど大がかりの催し物が披露されました。

場所、時は変わっても、前回大会と同様に大成功にしたいと強く祈念しています。皆様方のご支援をよろしくお願いたします。

実行委員会・総務部

南魚沼市中央公民館

〒949-6623 南魚沼市六日町865

TEL 025 (773) 6610

FAX 025 (772) 8161

E-mail : gaksyu@city.minamiuonuma.lg.jp

特集

関ブロ新潟大会



大会総務部長
(南魚沼市中央公民館長) **阿部 正夫**

1 はじめに

平成25年度関東甲信越静公民館研究大会が新潟県で開催されます。開催地については、平成22年度の県公民館連合会評議員会において、南魚沼市、湯沢町にすることが決まりました。

2 開催決定を受けて

開催に向けて、開催の構想等を練る機関として「開催準備委員会」を平成22年に設置しました。委員は7名で構成しました。

- 1 中公連会長
- 2 南魚沼市中央公民館長
- 3 湯沢町公民館長
- 4 南魚沼市中央公民館担当者
- 5 湯沢町公民館担当者
- 6 県公連事務局長
- 7 中公連事務局長

委員会は、平成22年9月から翌年2月まで計3回の会議を開催し大会の期日や会場等を検討しました。

〈第1回準備委員会 平成22年9月30日(木)長岡市〉

- (1)大会開催期日 平成25年8月29日(木)、30日(金)
- (2)大会主会場 南魚沼市民会館
- (3)全体会と分科会の持ち方
 - ①全体会場と分科会会場を分離
 - ②分科会会場を宿泊ホテルごとに設営
 - *これは、参加者の固定化で実質的に困難。
 - ③全体懇親会をやらない。各ホテルで懇親会を。
 - ④二日目の分科会終了後、流れ解散。

〈第2回準備委員会 平成22年11月30日(火)南魚沼市〉

- (1)分科会場検討
南魚沼市と湯沢町で合計14室
- (2)委託旅行業者の検討
地元を中心に選考
- (3)主会場視察
南魚沼市民会館



代表実行委員会の模様

〈第3回準備委員会 平成23年2月15日(火)南魚沼市〉

- (1)大会実行委員会組織決定
- (2)分科会場視察と決定
- (3)委託業者
共立観光

3 実行委員会への移行

3回にわたる準備委員会の活動を受けて、平成23年度には大会実行委員会を設置しました。委員は委員会の開催経費のことを考慮し下記の方々に委任しました。

- ①県公連評議員28名
- ②開催地実務者2名
- ③中公連事務局1名
- ④県公連事務局1名 計32名

委員会は代表委員(県公連理事9名)による委員会を2回、全委員による委員会を2回開き下記のことを決定しました。

- (1)大会の概要検討 大会要項の検討
過去の他県開催要項と同様の要項を作成する。
- (2)大会テーマの検討 分科会検討
大会テーマ
「人が育ち、人が集い、地域が元気になる公民館をめざして」
分科会14分科会を設定
- (3)講師の検討
地元の実践家を候補にしましたが、日程が折り合わず断念。

実践記録

172

シリーズ

「変わりゆく分館活動」

菟神地区地域づくり協議会事務長 青木 昇

◎「まほろば」が造られるまで

昭和31年4月に初代公民館長が任命され、合併により空き屋となった菟神村役場の建物を、地域の拠点として活動することになりました。

当時の公民館長は、名誉職であり小中学校の入学式・卒業式、歓送迎会や婦人会・敬老会・青年会などの地域の催事には、必ずお祝いを持参して、参加したそうです。また、分館長宅で飲みながら語り合うなど多忙と経費のかかる職務でした。

そんな中、菟神地域に多くの人が一堂に会って話し合ったり、催事をする「コミュニティ」施設がないということから昭和58年第9代分館長が中心となり、地域のみなさんで行政に要望することになりました。

しかし、当時の財政事情と他の地域に同じような施設があることから必要ないという声もあり大変苦慮されたようです。それでも地域の皆さんの熱意と活動が認められ、昭和61年11月末に竣工式を挙げることができました。



現在のまほろば

「まほろば」の命名は、地域の皆さんから公募していただき選考されたもので、万葉集にでてくる古語で「美しく優れたよい場所」の意味です。

◎菟神地区を考える会の発足

昭和59年に県からコミュニティづくり運動推進地区の指定を受け「菟神地区を考える会」が発足され、会員70名で「まほろば」の建設のために調査・研究をし、施設の特徴づくりや名称、自分たちの手で竣工式を実施するなど議論を重ねてきました。

「まほろば」の完成とともに地域の団体も活発になり、会議をはじめサークル活動・わら工芸・陶器づくり、イベントなどに利用されるようになりました。

昭和62年から始まった「ふれあい祭り」は、各種団体の協力を得てバザーや臨時店舗・11集落に割振りして芸能発表等を行ない楽しい一日を過ごしました。

◎もちつき大会と国際交流

昭和63年杵と臼で餅をつく風習が薄れたため、伝統文化を指導するため、小学校の体育館で臼と杵を16集め、地域の指導員やPTAなどの協力を得て大会を実施することになりました。

市内には、国際大学があり国際交流を深めるため留学生を招き日本の文化を一緒に楽しみました。



第24回のもちつき大会

ギネスに挑戦するため臼の数を20にしたこともありましたが、登録されませんでした。

◎まほろば連絡協議会の改組へ

平成11年第11代分館長のときに「菟神地区を考える会」が一定の目的が達成されたため、そのOB等の活動家だけによる協議会へと変わりました。

◎菟神地区地域づくり協議会

平成19年第13代分館長のときに合併により地域の隅々まで行き届かなくなるため、一部の公共事業を地域で協議して実施し、自分たちで提案できる事業を考えて行く組織が市から提案され分館事業と並行して実施することになりました。

平成20年長く続いた「ふれあい祭り」も婦人会組織の解散や地域づくり協議会の設置により廃止になってしまいました。

◎合同節分祭

「ふれあい祭り」を中止したため、新たに地域全体のイベントとして2月の第一日曜日に合同節分祭を実施し、子供たちやお年寄りに喜ばれています。



170名の参加者の節分祭

踊りから笑顔を元気を

すいれん

「踊りを通し地域を盛り上げていこう!」と二〇〇三年に結成した「すいれん」も、今年で十周年を迎えました。

沢山の方との出逢いに感謝し「心からの踊りで、皆様に笑顔と元気を届けられたら!」と、地元中之島の夏まつりをはじめ、各地域のお祭りやイベントに参加させて頂いています。

練習は、毎週火曜・金曜、午後七時半から中之島公民館で行っており、九月の新潟総



※写真は、山口県「錦よさこい連」さんと一緒に撮ったものです。

踊りに向け、下駄総踊りや各講習会も行っています。

よさこい・総踊りに興味のある方!新しい自分を見つけたい方!

ぜひ練習会場に遊びにいらしてください!

長岡市・すいれん
小野 英子 記



公民館でのお座敷七宝

あらい七宝焼クラブ

毎週水曜日の夜【七宝焼】の技法を使って、作品作りをしています。800度の高熱の釜の使用と、焼物作りの前処理等で水も使用する為、場所選びが大変です。以前は椅子での作業が出来る施設を利

用していたのですが、残念乍利用不可となってしまいました。そんな訳で公民館を利用させてもらう事に成りました。公民館には良い部屋が無く、タタミの部屋を利用する事に成りました。以後【お座敷七宝】と呼んでいます。〇〇年のベテランから2年目の人! 7??歳から2??歳迄の老若男女が、おしゃべりしながら楽しく作品作りをしています。コーヒータイムも有り、和気藹々です。出来上がった作品は《世界に一つ》の宝物です。色んな技法に挑戦し乍、毎年10月~11月に開催する【作品展】に向けて、毎週楽しく頑張っています。

お座敷七宝のある日



妙高市・あらい七宝焼クラブ
伊藤 民子 記

今年異動で、巻地区公民館にやってきた青柳治さんを紹介します。

青柳さんは多趣味で多芸、博識で雑学にも長け、巻地区の伝統芸能「のぞきからくり」の口上師としても活躍しています。また、人柄もよく初対面でもすぐ親しくなれるので、顔も広く、特にあちこちの酒場に必ずお友達があります。(いなくても、すぐ友達になっています。)

新潟市巻地区公民館
主任 青柳 治さん



こんなに公民館職員としてピッタリの人はいないのに、今まで公民館に配属にならなかったのが不思議なくらいです。今後、どんな楽しい企画やアイデアをだしてくるのか、これからの活躍に要注目です。

(新潟市巻地区公民館 小林 幸子 記)

全国的にも珍しい、高速道路ICと新幹線駅が隣り合わせになっている三条市・燕市。そこから西に広がる燕市街地の中心を流れる中ノ口川に架かる県央大橋。その下の河川公園を見下ろすと、畳12帖程の大きな花絵を色とりどりのチューリップで制作中の子供たちを指導しているのが、中央公民館3年目の松井寿子さんです。子ども体験活動や青少年健全育成及び家庭教育などを担当しています。

燕市中央公民館
主事 松井 寿子さん



松井さんは、大学及び大学院では美術学部で絵画を学び、その実力は出品2年目で、市最高の市展賞を受賞する程です。職員になる前は教員の経験もあり、子どもたちと一緒に歌ったり踊ったりもする、優しいお姉さんのような存在です。老若男女誰からも愛される、我が公民館の大事な宝です。

(燕市中央公民館 鈴木 彰 記)



お元気ですか

児玉 功 (佐渡市)



六年前まで二十年近く、社会教育部局でお世話になってきました。私も退職したら是非、生涯学習活動で充実した生活をしたいと心に決めていました。

晴れて本年三月で定年退職することになり、暴飲暴食の結果としてメタボになった腹を抱えてゆっくりと走りを楽しんでいます。コースはダムを周回で深緑の木立、鳥のさえずりに囲まれた快適な所です。

この後は、公民館の囲碁講座で素敵な碁敵に会える日を楽しみにしています。

恵贈資料紹介

①「わたしたちの公民館」 上越市立公民館編
②「熟議で地域に新しい風を起こそう」 文部科学省編

「わたしたちの公民館」が上越市立公民館から発行されました。平成23年度の事業内容や参加者数の報告とその事業の成果や課題が示されています。平成24年度の事業はそれぞれがわかりやすく紹介されています。青少年教育、家庭教育、成人教育の各分野の他に「まちづくり・自治、その他」の事業が市内地区館、分館で展開されていることが大きな特徴になっています。また、全編が手づくり仕様になっています。
お問い合わせ連絡先
・上越市立公民館
電話 025-1524-3106



information

○月刊公民館7月号のとびら(冊子の1ページ)に、前事務局長・鈴木友夫氏が執筆した<「青年学級」が今も健在 — 雪国妻有の里十日町市で>が掲載されています。全国的に見ても貴重な青年学級が、今も、十日町市で活動中であることやその意義などが紹介されています。

あ と が き

事務局長のつぶやき
○まもなく県大会です。主管の糸魚川市をはじめ開催にご尽力をされた方々に感謝するとともに、実り多い大会になるよう祈念しております。
○人は感動するときや意欲的に何かに取り組むときには「ドーパミン」という物質が脳内に放出されるのだそうです。特にその量は若いときほど多く、学業、スポーツとも優秀な人はこの放出度が高いといわれています。お花畑を見て「すこーい」

と感動する度合いは若者の方が高く、色彩のきれいな認識も「ドーパミン」の放出量からして高年齢とは違うでしょう。
もうすぐロンドンオリンピックの開会。スタートラインに立っている選手は集中して「ドーパミン」などは状態「なでしよ」か。たそがれ世代としては、せめて日本選手が活躍して快楽の「ドーパミン」がちよつとだけ出れば最高です。
(田原)

GO!GO!サマー!
GO!GO!500,000,000!
1等・前後賞合わせて **5億円**
ぐんと増額!

サマー史上最高額!

サマージャンボ 同時発売 2000万サマー
1等・前後賞合わせて5億円(1等4億円、前後賞各5千万円) 1等2千万円×450本

2012年市町村振興宝くじ **7月9日(月)発売**
発売期間 7月9日(月)～7月27日(金) 抽せん日 8月7日(木)

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。 新潟県市町村振興協会